

三鷹市立第四中学校 令和5年度【技術・家庭】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p><技術分野> ○「振り返りカード」を活用して自ら調べる活動を取り入れることができた。 ○目標を明確にし、映像やプレゼンテーションを用いた提示にすることができた。</p> <p><家庭分野> ○生活に必要な基本的、基礎的な知識と技能を身につけ、生活に実践できる態度を育てることができた。 ○食生活に関心をもち食事の果たす役割を理解させ、健康によい食習慣について考えさせた。</p>	<p><技術分野> 【現状】 ○指示を聞き、プリントの記入に取り組める生徒が多い。自分の意見を書いたり調べたりする場面では、生徒によって差が出てしまう。 【課題】 ○生徒同士の主体的なコミュニケーション場面を増やし、自ら答えを導いたり、解決したりする場面をつくる。</p> <p><家庭分野> 【現状】 ○小学校で学んだ知識を生かし、栄養素の種類や主な働きについて十分理解し、実物写真カードを用いながら、バランスのよい献立づくりをすることができた。 【課題】 ○新型コロナウイルス感染拡大防止のため「調理実習」を実施できていなかったため、現状では基礎的な技能について指導できていない。</p>	<p><技術分野> 【指導方法の課題】 ○三鷹「学び」のスタンダードの学習習慣2「授業中に自分の考えを述べたり、他者の発言を集中して聞いたりする。」について、よりよい作品にするための解決方法を生徒中心に導く話し合い場面を活発に作る。 【授業改善策】 ○年度当初から安全指導を徹底し、生徒が主体的に環境美化に取り組めるようにする。 ○作業手順や留意点を丁寧に説明し、苦手な生徒にもわかりやすい指示にする。</p> <p><家庭分野> 【指導方法の課題】 ○三鷹「学び」のスタンダードの「先生の話を中心して聞き、大事だと思ったことは、黒板に書かれなくてもノートに書く。」や「授業中に自分の考えを述べたり、他者の発言を集中して聞いたりする。」の二点について、徹底的に指導することで学力の向上を目指す。生活の課題を設定し、自分の考えや調べたことを仲間と協働しながら考えを深められるようにする。 【授業改善策】 ○小学校での調理実習の体験が少ないため、映像などを用いて技能の説明を丁寧に行う。 ○わからないことはそのままにせず、自分でも調べたり考えたりできるようにタブレットで調べる学習も取り入れ、自ら学んだり、わかったことを教えあったりできるようにする。</p>
第2学年	<p><技術分野> ○要点をおさえた授業展開を意識して行った。テストの記述問題での正答率が上がり、考える力が身についてきたことを実感した。</p> <p><家庭分野> ○ワークシートに考えをまとめさせてから話し合いや発言を促すことができた。 ○布を用いた物の製作や衣生活・住生活などについて、自ら工夫して生活するための技術を身につけることができた。</p>	<p><技術分野> 【現状】 ○授業に関して、積極的に取り組む生徒が多い。 【課題】 ○昨年に続き、自分の考えをしっかりともてない生徒が多い。自分の周りを客観的に見ることができないため、自身の課題を考える間に悩む生徒が多い。</p> <p><家庭分野> 【現状】 ○学校での実習を家での生活と結びつけ継続して行っている様子がない。家庭での取り組みの違いから知識の定着の差がある。 【課題】 ○タブレットの活用し、手順を示したスライドを用意するとともに、効率のよい作業をできるような指導を心がけ、意欲的に学べるような環境づくりをする。</p>	<p><技術分野> 【指導方法の課題】 ○習った知識・技能を自分の生活レベルに合わせて考えられるよう、場面設定をして状況に応じて考えられる力を養っていく。 【授業改善策】 ○相手の立場になって考えたり、役割分担をして活動するなど、具体的な視点を1つ定めて考える場を多く設ける。 ○ワークシートや教科書に記入する習慣をつけ、習った知識を生かして、自分の意見がもてるようにする。</p> <p><家庭分野> 【指導方法の課題】 ○作業進度や授業内容の理解度について知るための振り返りシートを記入することなどのスピードの差が大きい。 【授業改善策】 ○小学校で習った縫い方の復習から行い、その後、徐々に高い技術力を必要とする技能を身につけさせることにより「できた」「わかった」と自信をもてるように指導することを心がける。 ○考えたり調べたりすることをまとめ、事象を生活に結び付け、改良点、改善策まで考えられるようにグループでの話し合いや振り返りの時間を大切にする。</p>
第3学年	<p><技術分野> ○ICTを活用し、作業の正確性や理解力を高めることができた。</p> <p><家庭分野> ○幼児のための遊具の製作を通して、幼児に関心をもち、幼児の心身の発達や遊びの意義について理解していた。</p>	<p><技術分野> 【現状】 ○学習内容に疑問をもつことはできるが、自ら考えたり調べたりせず、教員が声をかけるまで作業が止まったままの生徒もいる。 【課題】 ○iPadを活用して、自分でも調べたり考えたりする機会を多くもつことが課題である。</p> <p><家庭分野> 【現状】 ○家族・家庭の分野では、人形を用いたりしながら体験的な授業を行うことで、将来の自分を想像しながら楽しく取り組むことができた。 【課題】 ○絵本作りなどの実習では、進度の遅い生徒への対応方法を再検討する必要がある。</p>	<p><技術分野> 【指導方法の課題】 ○既存の技術を調べる時間が少なく、基礎知識や工夫の方法が足りない様子があった。 【授業改善策】 ○三鷹「学び」のスタンダードの学習習慣3「考えたり調べたりしたことを文章にまとめる。」について、iPadで調べてまとめる場面を増やしていく。</p> <p><家庭分野> 【指導方法の課題】 ○幼児と接する機会の少ない生徒が多いので幼児の気持ちや生活を想像しにくい。 【授業改善策】 ○自分の幼いころを振り返るにより、今まで出会った方に感謝をもつことができ、愛情を注いでもらったことを次世代の子どもにつなげるように導く。 ○多様な生徒たちを一人ひとりの適性に合わせて指導し、個別最適な学びとなるようにする。</p>